

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（B）海外学術調査

研究期間：2006～2008

課題番号：18401013

研究課題名（和文） 中国新疆ウイグル族において継承し展開する合奏音楽”ムカム”の音楽
様式研究

研究課題名（英文） The study of styles of Muqam in Chinese Xinjiang Uyghur

研究代表者

田井 竜一（TAI RYUICHI） 京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・准教授

研究者番号：60299237

研究成果の概要：本研究は、木卡姆の様式が12曲の木卡姆が1セットになる12木卡姆に集約されることから、12木卡姆に至る展開のプロセスを追うことであった。その結果、哈密木卡姆と刀郎木卡姆に共通する楽器の形態、ダブの演奏などから、木卡姆のオリジンの様式が、哈密と麦盖堤に伝承され、新しい12木卡姆への展開は、哈密と麦盖堤に今日伝承される木卡姆の様式を原点として、楽曲構成、新しい楽器の使用、楽器の改良が行われてきたのではないかということが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2007年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2008年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
年度			
総計	9,100,000	2,730,000	11,830,000

研究分野：音楽学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：新疆、総合芸術、木卡姆、楽器、12木卡姆、刀郎木卡姆、吐魯番木卡姆、哈密木卡姆

1. 研究開始当初の背景

中国新疆維吾爾自治区には、維吾爾族の人々に伝承されている、“木卡姆”とよばれる総合芸術がある。木卡姆は、器楽、声楽、舞踊から成立し、今日も継承のみならず、新しい進展を続けている。新疆において、演奏される木卡姆の音楽様式の展開と継承のモメントは何か、また、アジアにおける合奏音楽における木卡姆の特質解明を目的として、本研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究は、現代の木卡姆の音楽様式研究であるが、木卡姆の完成度をより高くすべく、種々の試みがなされているように見える。木卡姆における展開の一つが、使用楽器において、見ることができるので、楽器編成を軸にして、木卡姆の継承と進展を捉えることを着眼点とした。

木卡姆は、烏魯木斉市の新疆木卡姆芸術団の演奏を頂点として、頂点に至る各地の木卡姆が伝承されてきた。各地域に伝承、継承、展開する木卡姆の実態をフィールドワークして、各地域の特質を研修し、地域の木卡姆から、烏魯木斉市のプロ芸術団へ至る木卡姆展開のプロセスを追い、新しい芸術創造の姿に迫ることを目的とした。

3. 研究の方法

木卡姆の実態把握のため、フィールドワークを行い、木卡姆演奏を録音録画し、楽器編成、演奏法などについて記録を作成した。

3年の研究期間では、資料収集も十分とはいえないが、維吾爾族の人たちが多く生活する天山山脈以南、タクラマカン砂漠を取り巻く地域において、地域の特徴を持つ木卡姆を調査することにした。

調査は、はじめに独自の様式を持つ麦盖堤の刀郎木卡姆からはじめ、喀什、吐魯番、鄯善、哈密、伊宁を調査地に選び、各地の独自のスタイルの収録をめざした。

なお、調査は、個人的レベルではなく、新

疆維吾爾自治区文化庁と連携を取り、調査地域の選定などをおこない、実施した。

4. 研究成果

木卡姆の様式は、12曲の木卡姆が1セットになる12木卡姆に集約され、12木卡姆に至る展開のプロセスを追うことであった。

麦盖堤の刀郎木卡姆は、9曲の木卡姆が1セットとなる様式で、使用する楽器も12木卡姆と名称は一致するが、異なる形態を有していた。刀郎木卡姆は、ギジャック、ラワップ、カーンおよびダブで演奏され、とくにギジャックとラワップの形態は、12木卡姆において使用される、同名の楽器の原型ではないかと仮定した。

麦盖堤は、新疆維吾爾自治区の西端に近く、東の哈密木卡姆とは対照的な地理的位置にある。哈密においても、ラワップは、哈密独自の形態ではあるが、刀郎木卡姆との構造上の共通点も見ることができる。過去において、新疆維吾爾自治区には、麦盖堤、哈密において、今日演奏されているラワップが分布していたのではないかと仮定したい。

哈密木卡姆に用いられるギジャックは、中原の二胡の形態に類似し、12木卡姆のギジャック、刀郎木卡姆のギジャックと弓奏するという共通点を持つが形態は異なる。

哈密は、新疆維吾爾自治区の東端に近く、中原の音楽文化の影響を考えるうえで、貴重な例ではないかとも考えられる。哈密木卡姆の特徴にダブを複数の女性が演奏することであった。本調査においても、実態を把握すべく、フィールドワークを予定したが、天候不純のため、現地へ行くことが不可能になり、今後の課題として残された。

ダブを複数の奏者が演奏する現象は、哈密木卡姆、刀郎木卡姆にも共通する。

哈密木卡姆と刀郎木卡姆に共通する楽器の形態、ダブの演奏などから、木卡姆のオリジナルの様式が、哈密と麦盖堤に伝承され、新しい12木卡姆への展開は、哈密と麦盖堤に今日伝承される木卡姆の様式を原点として、楽曲構成、新しい楽器の使用、楽器の改良が行われてきたのではないかと仮定した。

木卡姆には、維吾爾族の楽器のほかに、伊寧、吐魯番ではヴァイオリンも加わっており、楽器編成の拡大をみると、木卡姆の旋律を演奏可能な楽器であれば、種類を問わず受け入れるという思想があると考えられる。

木卡姆は、今日伝承される刀郎木卡姆、哈密木卡姆をベースに、新様式を創造しつつ、現在も展開している総合芸術であると位置づけることが可能である。

(付)

A. 木卡姆の楽器編成

1. 刀郎木卡姆の楽器編成

弦鳴楽器

リュート属

ラフップ、ギジャック

ギター属

カールン

膜鳴楽器

ダブ

2. 新疆木卡姆芸術団の楽器編成

弦鳴楽器

リュート属

ラフップ、ドットル、タンブル、ギジャック、ホシタル

ギター属

チャン、カールン

膜鳴楽器

ダブ、ナグラ

気鳴楽器

ネイ

B. 木卡姆の楽曲構成

1. 刀郎木卡姆 9曲の楽曲名称

1. バシバヤワン

2. ウズハルバヤワン

3. ラクバヤワン

4. ムシュウレクバヤワン

5. ボムバヤワン

6. ジュラ

7. スムバヤワン

8. フデュクバヤワン

9. ドガメトバヤワン

2. 12木卡姆 12曲の楽曲名称

1. ラックムカーム

2. チャビアットムカーム

3. ムシャーヴラクムカーム

4. チャリゲームカーム

5. パンジゲームカーム

6. オザールムカーム

7. エジャムムカーム

8. ウシャームカーム

9. バヤットムカーム

10. ナーヴァムカーム

11. セゲームカーム

12. イラックムカーム

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

① 原田三壽「ウイグルの割札の祝宴」、『京都民俗』第24号、2007年、123～136ページ、査読有り。

② 樋口 昭「新疆ウイグル自治区において演奏されるドラムカーム(刀郎木卡姆)の楽器」、『創造学園大学紀要』第3集、2006年、37-47ページ、査読無し。

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

○取得状況(計 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田井 竜一 (TAI RYUICHI)
京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・准教授
研究者番号：60299237

(2) 研究分担者

原田 三壽 (HARADA MITHUTOSHI)
関西外国語大学・国際言語学部・准教授
研究者番号：60515774

(3) 連携研究者

蒲生 郷昭 (GAMOU SATOAKI)
日本大学・芸術学部・講師
研究者番号：90015248

(4) 研究協力者

樋口 昭 (HIGUCHI AKIRA)
埼玉大学・名誉教授